


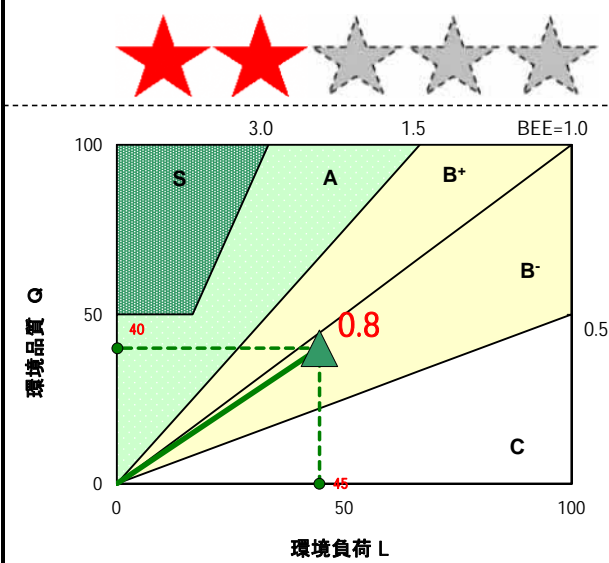
CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)シャワー通りプロジェクト	階数	地上11階、地下0階
建設地	熊本県熊本市中央区下通二丁目3番32.3番33.3番35	構造	S造
用途地域等	商業	平均居住人員	376 人
省エネ：地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年8月 竣工	評価の実施日	2025年11月28日
敷地面積	828 m ²	作成者	
建築面積	498 m ²	確認日	2025年11月28日
延床面積	5,071 m ²	確認者	



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 0.8

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q (\text{環境品質})}{L (\text{環境負荷})}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

81%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価	評価点
	71

評価点

■ 熊本県重点評価基準

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

78.2

58.7

75.0

67.3

判定値 (評価点)

ランク表示

100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)シャワー通りプロジェクト	階数	地上11階、地下0階
建設地	熊本県熊本市中央区下通二丁目3番32,3番33,3番36	構造	S造
用途地域等	商業	平均居住人員	376人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年8月 竣工	評価の実施日	2025年11月28日
敷地面積	828㎡	作成者	
建築面積	498㎡	確認日	2025年11月28日
延床面積	5,071㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ BEE = 0.8 C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 71

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 78.2	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 58.7
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 75.0	重点事項4: 循環型社会の実現 67.3

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				2.6	0.15	2.6	1.00		2.6
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境									
2.1 室温制御				2.6	0.35	2.6	1.00		2.6
1 室温				3.0	0.50	3.0	0.50		
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.57		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25	3.0	0.43		
2.2 湿度制御				3.0	0.38	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.20	1.0	0.20		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用				2.4	0.25	3.0	1.00		2.7
1 昼光率				3.0	0.30	3.0	0.30		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.60		
3 昼光利用設備				-	-	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	1.00	3.0	0.40		
1 昼光制御				1.0	0.30	3.0	0.30		
3.3 照度				1.0	1.00	3.0	1.00		
3.4 照明制御				3.0	0.15	3.0	0.15		
4 空気質環境									
4.1 発生源対策				3.5	0.25	3.3	1.00		3.4
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を使用			4.0	0.50	4.0	0.63		
4.2 換気				4.0	1.00	4.0	1.00		
1 換気量				3.0	0.30	2.3	0.38		
2 自然換気性能				3.0	0.50	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ				-	0.30	-	-		2.7
1 広さ・収納性				2.4	0.40	2.8	1.00		2.6
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.40	3.0	0.60		
3 バリアフリー計画				-	-	3.0	0.50		
1.2 心理性・快適性				3.0	1.00	-	-		
1 広さ感・景観	客室天井高:2.5m			1.0	0.30	2.5	0.40		
2 リフレッシュスペース				-	-	4.0	0.50		
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	取り組み数8個			4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.9	0.30	-	-		2.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.80	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用しEは不使用			3.0	0.10	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				2.6	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				2.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		
				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			-	-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.26	-	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.83	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.78	3.4	0.50	-	-	3.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、節水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・内装材と設備が錯綜せず、容易に取り外し可能(LGS下地)	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		LCCO ₂ 排出率=3.7%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	浸透枿使用	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインチェックリストの一部を満たす ・広告物照明対策ガイドラインチェックリストの過半を満たす	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 (仮称)シャワー通りプロジェクト

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		71
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				78.2	0.40	31.28
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.1	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.7	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				67.3	0.20	13.46
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

(仮称)シャワー通りプロジェクト

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	2面道路に面するため、外壁や窓の遮音性能を確保し、たて内の快適性を重視した設計とした。	
Q1 室内環境	居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努めるとともに、十分な天井高さを確保することで快適な住空間を目標とした。 居室のサッシは遮音等級T-2を採用し、室内の快適性に配慮した。 使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する計画とした。	
Q2 サービス性能	内装材のビニルクロスはロングセラーの定番品番とし、張り替えなどの更新に配慮した。 屋上の設備置場に至る屋外階段を設置し、機器のメンテナンスや更新のしやすさに配慮した。	
Q3 室外環境 (敷地内)	外壁材(ECP・ALC)は彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図った。	
LR1 エネルギー	居室の窓は複層ガラスとし、外部からの断熱性に配慮した計画とした。	
LR2 資源・マテリアル	敷地内の雨水最終柵を浸透柵とし、地下の保全に配慮した計画とした。	
LR3 敷地外環境	キュービクルや発電機等の音の出る機器は屋上にまとめ、周辺地域への影響に配慮した。	
その他		